

令和元年度糖尿病性腎症重症化予防研修会（実務者編）実施報告

【実施状況】

●実施日 12月18日（水） 10:00～16:00

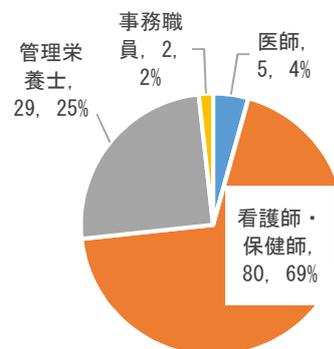
●参加人数 116名（男：7人、女：109人）

●所属（人）

県庁	市町村	保健所	医療機関	健保	保指機関	県国保連
1	71	5	31	1	5	2

●職種別（人）

医師	保健師	看護師	管理栄養士	事務職
5	79	1	29	2



●課別（人）

健康課	国保課	総務企画課	医療福祉課	医療機関	健保	保指機関	県国保連
43	29	4	1	31	1	5	2

【プログラム】

テーマ：「糖尿病性腎症重症化予防事業を効果的に行うために指導力向上を図る」

時間	内容
10:00 (40分)	講義 「糖尿病性腎症を悪化させないためにできること」 あいち健康の森健康科学総合センター センター長(医師) 津下 一代
	休憩
10:50 (40分)	情報提供①「糖尿病性腎症重症化予防事業に関する愛知県の動き」 愛知県健康医務部国民健康保険課 課長補佐 鈴木清誠 情報提供②「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」 愛知県後期高齢者医療広域連合 課長 長谷川 誠
	昼食
12:30 (120分)	事例検討 「糖尿病性腎症 病期の視点から事例を読み解く」 あいち健康の森健康科学総合センター 健康開発部 技監 古川麻里子・課長 栄口由香里
15:30 (30分)	総括 「研修会のまとめ」 質疑応答・意見交換等
16:00	アンケート記入・終了

【研修会の様子】

今年度から実施することとなった研修会です。8月の事業管理・運営者編に続き、「糖尿病性腎症重症化予防事業を効果的に行うために指導力向上を図る」ことをテーマとし、糖尿病性腎症重症化予防に携わっている専門職の方を対象に実施しました。

津下センター長の講義では、糖尿病性腎症重症化予防について、プログラム策定の背景や自治体が取り組む意義を中心に、プログラムの進め方、実施するポイントを学びました。また、関係する事業として、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施及び、地域・職域連携について情報提供がありました。

愛知県保健医療局健康医務部国民健康保険課の鈴木課長補佐より、糖尿病性腎症重症化予防の県版プログラムの説明及び、保険者努力支援制度の実施状況について情報提供があり、重症化予防プログラムや特定健診・保健指導を行う必要性を確認しました。また、愛知県後期高齢者医療広域連合の長谷川課長より、来年度から始まる高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施に関することや、県内の後期高齢者医療の現状について情報提供いただき、各部署で連携する必要性を確認しました。

●講義

「糖尿病性腎症を悪化させないためにできること」



●情報提供

「糖尿病性腎症重症化予防事業に関する愛知県の動き」



●情報提供

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」



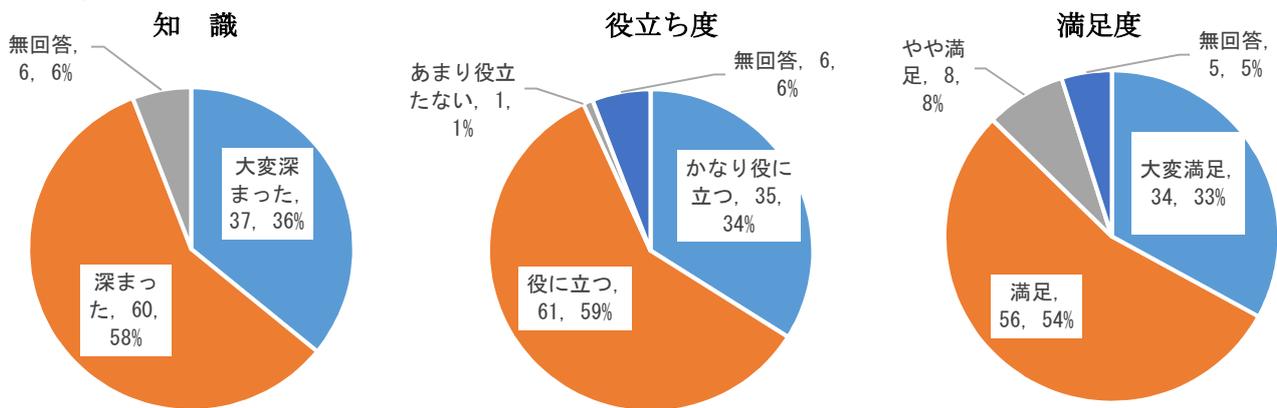
●事例検討「糖尿病性腎症 病期の視点から事例を読み解く」・「まとめ」

事例をもとに、腎症病期（2～4期）ごとの対象者の関わり方を段階的に確認し、古川医師、栄口保健師から、解説や資料の紹介等を加えて進めました。また、自身の立場から関われそうなことや、地域関係者で連携するための体制整備の状況や課題について意見交換しました。



●アンケート結果 103名から回収（回収率 88.8%）

1. 全体



2. 受講者の声（感想）

<重症化予防プログラム>

- ・ レセプトがあると踏み込みにくい方でも介入が必要な人もいるので、その方へのアプローチを地域で共有していく必要性を再認識できた。
- ・ 概数把握を行い、市の現況を把握したうえで、重症化プログラムの事業評価について行いたい。
- ・ 対象者の抽出ではHbA1cのみではなく、尿たんぱくやeGFRを見ることも必要であることがわかった。
- ・ 本市はこれから取り組むところで、来月初めに受診勧奨訪問に行くが、そのために、準備すべきこと、考えておくべきことを知ることができ良かった。
- ・ 体制づくりがまだ不十分なので、他の市町村の話がとても参考になった。
- ・ 地元医師会以外に受診している場合に、医療との連携について課題だと感じた。
- ・ 約35%が未治療という現状であり、早期な介入が必要と感じた。

<事例検討・グループワーク>

- ・ 病期別の事例検討について、グループワークも交えて具体的に知ることができた。
- ・ まだ事業を開始していないので今後にもむけて参考になりました
- ・ 健診結果から病期やCKD分類をみること、関わりについての事例検討は大変わかりやすかった。
- ・ グループワークで自分の立ち位置、状況、また他の行政、市民病院との関りを考えることができ、とても有意義な時間となった。
- ・ 他市町村の担当者でグループワークを行うことは多いが、病院職員と意見交換する機会はないため、とてもいい機会になった。
- ・ 多職種の視点や、病院と行政で行っていることの違いを具体的に聞いて良かった。
- ・ 他の自治体の取り組みや病院等、他機関の状況を知ることができ参考になりました。
- ・ 病院看護師さんと同じグループで、病院外来での指導状況等を知ることができた。

<連携>

- ・ 医療機関との連携、庁舎内の連携をどう進めていくか課題がたくさん見つかりました。
- ・ 医療機関と行政と顔を合わせて意見交換でき、連携へつながるきっかけとなった。
- ・ 医師との連携の中で連絡帳を使う等、取り入れていきたいと思った。
- ・ 地域連携の必要性が大切だと改めて実感しました。
- ・ 市内医療機関で糖尿病腎症の指導をしている所と情報交換会をしたい。

<普及・啓発>

- ・ 地域全体で取り組む必要性、市民全体へ向けて糖尿病予防の啓発をしていきたい。
- ・ 糖尿病だけでなく、腎症とのかかわりを伝えることも大切だと思いました。

<一体的実施>

- ・ 一体的実施が来年から開始されることもあり、国保限定ではなく、今ある資源を活用し効率的な取り組みの必要性を感じた。
- ・ 特に糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象に 70 歳代が多く、数年で後期高齢に移っていくので、長寿課・健康課との連携を密にしたい。

<感想>

- ・ 保健師として個々の対象者に関わることは今までやってきた保健指導と通じる部分が多いとわかり、少し安心した。
- ・ 行政の指導方法がよくわかり、地域の基幹病院の専門職として連携し、重症化予防に努めたい。
- ・ 特定保健指導の行動計画立案時も、ただ受診勧奨をするのではなく病期にあわせた指導を進めたい。

3. 更に深めたいこと

<指導方法>

- ・ 受診勧奨で病院へ行ってもらえない、連絡がつかないなど、困った事例について
- ・ 指導ツールの作成について知りたい。

<好事例>

- ・ 専門医が少ない地域での効果的な事例について
- ・ 治療中断者への受診勧奨の方法や効果的な取り組み方法等、他市町村の状況について
- ・ 医師会や庁内他部局と連携して事業を行っている自治体事例や他県の事例を知りたい。
- ・ 職域との連携について、知りたい。

<対象者抽出・評価>

- ・ 対象者の抽出基準や優先順位のつけ方について
- ・ KDB を使った分析の方法、事業評価の方法を知りたい。